

慶應義塾大学試験問題用紙（日吉）

				試験時間	50分	分
平成 25 年 07 月 23 日 (火) 3 時限施行				学部	学科	年 組
担当者名	服部 哲弥 君			学籍番号		
科目名	線形代数			氏 名		
				採 点 欄		

注意： 解答は答案用紙の表がわに収めること．答えだけでよい．

問 1 . $A = \begin{pmatrix} 2 & -2 & 1 & -5 \\ 0 & 1 & -1 & 5 \\ 0 & 0 & 1 & -5 \\ 0 & 0 & 0 & 5 \end{pmatrix}$ および t, u, v, w, x, y を実定数として $B = \begin{pmatrix} \frac{1}{2} & t & u & v \\ 0 & 1 & w & x \\ 0 & 0 & 1 & y \\ 0 & 0 & 0 & \frac{1}{5} \end{pmatrix}$

とおく．以下の量 i), ii), iii), iv) を計算せよ．答えは計算結果だけでよい．

- i) 行列式 $|A|$. ii) 和の行列式 $|A+B|$. iii) 積 AB . iv) 逆行列 A^{-1} .

問 2 . $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 3 \\ -1 & 1 & -4 \\ 3 & -4 & 1 \end{pmatrix}$ および $\vec{k} = \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix}$ とし, $\vec{w} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ とおいて, x, y, z

についての連立 1 次方程式 $A\vec{w} = \vec{k}$ を考える．以下の問いに答えよ．答えは答えだけでよい．

- i) 行列式 $|A|$ を計算せよ．答えは答えだけでよい．
 ii) A の第 1, 2, 3 列それぞれがなす列ベクトルをそれぞれ $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ とおくと, 講義でのたとえでいう「引越荷物を小箱に分ける記号法」によって $A = (\vec{a} \ \vec{b} \ \vec{c})$ と書け, さらに,

$$A\vec{w} = \square \vec{a} + \square \vec{b} + \square \vec{c} \tag{1}$$

と, ベクトルの和とスカラー倍だけを用いた式で書ける．式 (1) の右辺の形の式を 3 つのベクトル $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ の線形結合などと呼ぶ．空欄に適切な記号を入れて右辺を完成せよ．答えは式 (1) 全体を書け．

- iii) $\vec{k} = A\vec{w}$ の右辺に式 (1) を代入した式を行列式 $\begin{vmatrix} \vec{k} & \vec{b} & \vec{c} \end{vmatrix}$ (行列式 $|A|$ の 1 列目を \vec{k} で置き換えた行列式) に代入して行列式の性質を用いると, 未知数 x に対するクラメル公式

$$x = \frac{\begin{vmatrix} \square & \vec{b} & \vec{c} \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} 1 & -1 & 3 \\ -1 & 1 & -4 \\ 3 & -4 & 1 \end{vmatrix}}$$

を得る．問 2 の冒頭の A と \vec{k} の具体形を用い, 空欄に 3 行 3 列に

並んだ 9 個の数値を入れて右辺を完成せよ．答えは右辺の分子の行列式だけを書けばよい．

- iv) 上の小問の比を計算して x を求めよ．答えは答えだけでよい．

v) 行列 $\begin{pmatrix} 1 & -1 & 3 & 2 \\ -1 & 1 & -4 & -2 \\ 3 & -4 & 1 & 3 \end{pmatrix}$ を行基本変形して, 左の $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 3 \\ -1 & 1 & -4 \\ 3 & -4 & 1 \end{pmatrix}$ の部分を

単位行列に変形する方法で連立 1 次方程式 $A\vec{w} = \vec{k}$ の解 \vec{w} を求めよ．答案用紙には

(解答例) $\begin{pmatrix} 1 & 3 & 1 \\ 2 & 5 & 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 3 & 1 \\ 0 & -1 & -2 \end{pmatrix} \rightarrow \dots \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 3 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & -5 \\ 0 & 1 & 2 \end{pmatrix}$

$$\vec{w} = \begin{pmatrix} -5 \\ 2 \end{pmatrix}$$

のように，最後の答え \vec{w} の他に，最初の変形と最後の変形も記入すること．

問3． 次の『』内の文章は，ベクトルの組について，1次独立か1次従属かに関わる記述である．空欄(1)―(4)に入る適切な数値または語句を答えよ．(1)は3個のベクトル，(2)は A と \vec{w} で書かれた式，(3)はベクトル，(4)は数値である．答案用紙には(5) $5x + 3y = 1$ のように答えのみを書け．

『ベクトルの組に対してその線形結合が $\vec{0}$ になるためには，各ベクトルのスカラー倍を全て0倍にする(自明な線形結合)しかないとき，そのベクトルの組は1次独立，自明でない線形結合が

あるとき1次従属という．たとえば，5個の3次元ベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 5 \\ 6 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 4 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix},$

$\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ は1次従属だが，この中から選んだ3個のベクトル(1) は1

次独立である．

一般に3個の3次元列ベクトルを(たとえば(1)のように)選んだとき，これらを横に並べて作られる3次正方行列を A とおく． x, y, z を実数の変数として $\vec{w} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ とおくとき，選ん

だ3個の列ベクトルが1次独立であることは \vec{w} の方程式(2) の解が $\vec{w} =$ (3) だけであることと同値である．さらにこのことは(今の場合のように A が正方行列の場合は)， A の行列式が(4) でないことと同値である』

問1 (40=10*4). 【講義6 (三角行列の行列式), 講義2 (行列の積), 講義3 (逆行列)】

i) $|A| = 10$. ii) $|A+B| = \frac{5}{2} \times 2 \times 2 \times \frac{26}{5} = 52$.

iii) $AB = \begin{pmatrix} 1 & 2t-2 & 2u-2w+1 & -2x+y+2v-1 \\ 0 & 1 & w-1 & x-y+1 \\ 0 & 0 & 1 & y-1 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$. iv) $A^{-1} = \begin{pmatrix} \frac{1}{2} & 1 & \frac{1}{2} & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & \frac{1}{5} \end{pmatrix}$.

i) と ii) の三角行列の行列式は対角成分の積, iv) の逆行列は iii) の AB が単位行列になるときの B .

問2 (40=5*4+20). 【講義8 (クラメル公式), 11 (はき出し法)】

i) $|A| = -1$ ii) $A\vec{w} = x\vec{a} + y\vec{b} + z\vec{c}$ iii) $\begin{vmatrix} 2 & -1 & 3 \\ -2 & 1 & -4 \\ 3 & -4 & 1 \end{vmatrix}$ iv) $x = \frac{-5}{-1} = 5$

v) $\begin{pmatrix} 1 & -1 & 3 & 2 \\ -1 & 1 & -4 & -2 \\ 3 & -4 & 1 & 3 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 & 3 & 2 \\ 0 & 0 & -1 & 0 \\ 3 & -4 & 1 & 3 \end{pmatrix}$
 $\rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 & 3 & 2 \\ 0 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & -1 & -8 & -3 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 & 3 & 2 \\ 0 & -1 & -8 & -3 \\ 0 & 0 & -1 & 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 & 3 & 2 \\ 0 & 1 & 8 & 3 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$
 $\rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & 11 & 5 \\ 0 & 1 & 8 & 3 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 5 \\ 0 & 1 & 0 & 3 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{pmatrix} \vec{w} = \begin{pmatrix} 5 \\ 3 \\ 0 \end{pmatrix}$.

(変形は解答例であって, 別解を許す.)

問3 (20=5*4). 【講義12 (1次独立, 1次従属)】

(1) たとえば $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 5 \\ 6 \end{pmatrix}$ ($\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ 以外の任意の3個)

(2) $A\vec{w} = \vec{0}$ (3) $\vec{0}$ (4) $\vec{0}$